

Title	東京歯科大学研究年報 : 平成13年度
Journal	東京歯科大学研究年報, (): -
URL	http://hdl.handle.net/10130/373
Right	

脳科学研究施設

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

客員教授	中村 嘉男	口腔・顎顔面機能の中枢制御に関する研究
	丸山 剛郎	口腔・顎顔面機能の中枢制御に関する研究
	山田 好秋	口腔・顎顔面機能の中枢制御に関する研究
	湯本 真人	口腔・顎顔面機能の中枢制御に関する研究
講師	新谷 益朗	口腔・顎顔面機能の中枢制御に関する研究
		医療倫理 とくに患者・被験者の人権の保護に関する研究
		歯科情報学 とくに科学計量学 (Scientometrics) 手法を用いた電子的情報資料の解析

2. 成果の概要

本施設では平成11年度の開設から今日に至るまで東京歯科大学 HRC 第3プロジェクトの活動の中核をなす場として多くの研究者を迎え入れ、口腔・顎顔面機能の中枢制御に関する研究を行っている。平成13年度までの3年間で MEG というまったく新しい機器を実用化して研究に応用していくために、関連する装置の開発と MEG 環境の整備を推進し、利用者をサポートしてきた。その成果は歯科基礎医学会、日本臨床神経生理学会、東京歯科大学口腔科学研究センターワークショップ等で発表した。平成13年度からはとくに咬合異常関連症候群と中枢制御について MEG を用いた研究を重点的に進めている。

患者の人権の保護に関する研究では、医療画像における肖像権やプライバシーについて計量学的な検索をすすめ、その成果を日本顔学会フォーラム顔学2001大会において発表した。

3. 教育講演等教育に関する業績、活動

氏名	年月日	ワークショップ名	役割	開催地	備考
新谷 益朗	13.7.9~10	東京歯科大学大学院夏期ベシックセミナー	講師	千葉市	

解 説

1. 新谷益朗：目の健康管理：1. その目薬は大丈夫ですか？, デンタルダイヤモンド 26(1), 83~89, 2001.
2. 新谷益朗：目の健康管理：2. 目もよるこぶ診療室へ 疲れ目にならないためのヒント, デンタルダイヤモンド 26(1) (11), 90~96, 2001.
3. 新谷益朗：薬液による目の障害：薬剤と歯科用材料, デンタルダイヤモンド 26(1), 112~116, 2001.
4. 新谷益朗：インターネット情報探索ガイド, あたらしい眼科 19(1), 9~15, 2002.

そ の 他

1. 新谷益朗：眼科手術の診療報酬は優遇されているのか？, デンタルダイヤモンド 26(1), 149, 2001.

学 会 抄 録

1. Inoue, T.⁽¹⁾, Shimono, M.⁽²⁾, Matsuzaka, K.⁽¹⁾, Muramatsu, T.⁽²⁾, Miyakoshi, S.⁽²⁾, Murakami, S.⁽²⁾, Abe, S.⁽³⁾, Agematsu, H.⁽³⁾, Yanagisawa, T.⁽⁴⁾, Miake, Y.⁽⁴⁾, Tazaki, M.⁽⁵⁾, Kato, T.⁽⁶⁾, Ishihara, K.⁽⁶⁾, Yoshinari, M.⁽⁷⁾, Hasegawa, K.⁽⁷⁾, Shintani, M., Asai, Y.⁽⁸⁾, Furusawa, N.⁽⁸⁾, Yoshida, T.⁽⁸⁾, Suzuki, M.⁽⁹⁾, Ishikawa, T.⁽¹⁰⁾, Takase, Y.⁽¹⁰⁾, Aoki, S.⁽¹⁰⁾, Yoshida, M.⁽¹¹⁾, Ootawa, Y.⁽¹²⁾, Kubo, S.⁽¹²⁾, Yajima, Y.⁽¹³⁾, Shibahara, T.⁽¹³⁾, Shigematsu, T.⁽¹⁴⁾: Development of Smart Biomaterials for the Dentin / Pulp Complex, Bull Tokyo Dent Coll 42(2), 117~118, 2001. (平成12年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショップ, Chiba) HRC982A01 (1)臨検査, (2)病理, (3)解剖, (4)超微構造, (5)生理, (6)微生物, (7)理工, (8)保存 I, (9)保存 II, (10)保存 III, (11)補綴 I, (12)小児歯, (13)口外 I, (14)口外 II
2. 鈴木 隆⁽¹⁾, 澁川義幸⁽¹⁾, 熊井敏文⁽¹⁾, 中村嘉男, 新谷益朗：顎顔面部位電気刺激による大脳皮質活動部位のマッピング, 歯基礎医学会誌 43(5) 618 2001. (第43回歯科基礎医学会学術大会, さいたま市) HRC3A05 (1)生理
3. 新谷益朗：目隠しは何を隠そうとしているのか？ 医学系学術誌の臨床症例写真を検証する, 日本顔学会誌 1(1), 60, 2001. (第6回日本顔学会大会, 東京)
4. 加藤 隆⁽¹⁾, 加藤元一郎⁽¹⁾, 村松太郎⁽²⁾, 新谷益朗：顔パターン検出過程の脳磁図による検討, 平成13年度生理学研究所研究会「第2回脳磁場ニューロイメージング」プログラム・抄録集, 20, 2001. (平成13年度生理学研究所研究会「第2回脳磁場ニューロイメージング」, 岡崎市) 脳科学研 (1)市病・精神・神経科, (2)慶大・医・精神神経科
5. 澁川義幸⁽¹⁾, 熊井敏文⁽¹⁾, 新谷益朗, 鈴木 隆⁽¹⁾, 中村嘉男：随意性顎運動に関連する大脳皮質領域の脳磁場解析, 第2回脳磁場ニューロイメージング抄録集, 25, 2001. (平成13年度生理学研究所研究会 第2回脳磁場ニューロイメージング, 岡崎市) HRC3A04 (1)生理
6. 加藤 隆⁽¹⁾, 加藤元一郎⁽¹⁾, 村松太郎⁽²⁾, 新谷益朗, 秋根良英⁽¹⁾：顔パターン検出過程の脳磁図による検討, 第31回日本臨床神経生理学会学術大会プログラム・予稿集, 194, 2001. (第31回日本臨床神経生理学会学術大会, 東京) 脳科学研 (1)市病・精神・神経科, (2)慶大・医・精神神経科

7. 松脇由典⁽¹⁾, 浅香大也⁽¹⁾, 久納 淨⁽¹⁾, 中島庸也⁽¹⁾, 新谷益朗: ヒト聴覚誘発 MEG および嗅覚誘発 MEG の検討, 平成13年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショップ抄録集 19, 39~43, 2002. (平成13年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショップ, 千葉市) 脳科学研 (1)市病・耳鼻科
8. 内山健志⁽¹⁾, 吉村 元⁽¹⁾, 塩見周平⁽¹⁾, 加藤 隆⁽²⁾, 加藤元一郎⁽²⁾, 新谷益朗: 下顎孔伝達麻酔後の口腔内異常感覚に対する言語中枢の制御に関する研究, 平成13年度東京歯科大学口腔科学センターワークショッププログラムおよび抄録集, 32, 2002. (平成13年度東京歯科大学口腔科学センターワークショップ, 千葉市) 東京歯科大学口腔科学研究センター 脳科学研 (1)口外Ⅱ, (2)市病・精神・神経科
9. 笠原正貴⁽¹⁾, 一戸達也⁽²⁾, 金子 譲⁽²⁾, 間宮秀樹⁽²⁾, 縣秀栄⁽²⁾, 松浦信幸⁽²⁾, 川口 充⁽³⁾, 柴原孝彦⁽⁴⁾, 米津博文⁽⁵⁾, 澁川義幸⁽⁶⁾, 新谷益朗: プロジェクト3: 口腔・顎顔面機能の中枢制御に関する研究 MEG でなにがわかったか? PARTⅡ 顎顔面領域の慢性難治性疼痛に対する治療方針の検討, 平成13年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショッププログラムおよび抄録集, 2002. (平成13年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショップシンポジウム, 千葉市) HRC3A07 脳科学研 (1)水病・麻酔科, (2)歯麻, (3)薬理, (4)口外Ⅰ, (5)口外Ⅱ, (6)生理
10. 加藤元一郎⁽¹⁾, 加藤 隆⁽¹⁾, 吉野文浩⁽¹⁾, 秋山知子⁽¹⁾, 秋根良英⁽¹⁾, 新谷益朗: 顎関節症と咬合異常関連疾患における聴覚・視覚誘発 MEG 反応の変容に関する検討 特に, body image および自律神経系の障害と MEG 反応との関連について, 歯科学報 102(3), 156~157, 2002. (平成12年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショップ, 千葉市) 脳科学研 (1)市病・精神・神経科
11. 杉山哲也⁽¹⁾, 新谷益朗, ピケロカティウスカ⁽¹⁾, 櫻井 薫⁽¹⁾, 丸山剛郎, 赤澤勇人⁽¹⁾, 安藤友彦⁽¹⁾, 三澤壮太郎⁽¹⁾, 高橋 賢⁽²⁾: Go / no - go 課題による下顎随意運動の脳活動部位の解析, 歯科学報 102(3), 157~159, 2002. (平成12年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショップ, 千葉市) (1)補綴Ⅰ, (2)保存Ⅲ
12. 渡邊 裕⁽¹⁾, 阿部伸一⁽²⁾, 新谷益朗, 山根源之⁽¹⁾, 高橋正憲⁽³⁾, 井出吉信⁽²⁾, 山田好秋, 下野正基⁽⁴⁾, 石川達也⁽⁵⁾: 運動関連脳磁場計測の問題と展望, 歯科学報 102(3), 159~160, 2002. (平成12年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショップ, 千葉市) HRC3A01 (1)市病・オーラルメディシン, (2)解剖, (3)市病・整外科, (4)病理, (5)保存Ⅲ